

平成 27 年 7 月 31 日

釜石市議会
議長 海老原 正人 殿

海盛会
代表 合田 良雄



会 派 視 察 報 告 書

当会派所属議員による視察報告を下記の通り実施しましたので報告致します。

1. 視察項目

- ①老朽空き家対策について
- ②ラグビーに対するスポーツ振興について及び 2019 年ラグビーワールドカップの成功に向けた対策について

2. 視察日程

平成 27 年 5 月 28 日 (木) ~ 5 月 30 日 (土)

3. 参加者

合田良雄、赤崎光男、川崎勇一、菅原規夫、海老原正人

4-1. 視察概要…訪問市 (福岡県豊前市、人口 26,600 人)

- ①研修日：平成 27 年 5 月 29 日 (金) 10:00~
- ②研修課題：老朽空き家対策 (固定資産税の減免制度について)
- ③視察先対応者：議会事務局 中西氏、市議会議員 磯永優二氏
- ④視察に取り上げた理由：豊前市は 2015 年度から、柱が著しく傾くなど老朽化して危険になった空き家対策として、解体後の土地の固定資産税を減免する制度を始めていて、これは危険家屋の取り壊しを促進し、市民の安心・安全を確保するのが狙い。こうした取り組みは全国的にも珍しいので今回の視察となった。
- ⑤視察先の概要説明 (議会事務局 中西氏)

住宅が立っている土地には固定資産税の軽減措置が適用されるが、住宅を取り壊して更地にした場合、軽減措置がなくなることから、一般的に税負担が増える。そこで豊前市では、老朽危険度が一定の基準を超える家屋を解体した後の土地の固定資産税を独自に最長 10 年間減免し、危険家屋の解体を推進することにした。

具体的には、10 年間のうち最初の 5 年間について、住宅用地の特例による軽減措置が通用された場合の税額との差額を減免する。ただ、6 年目以降になると、減免額を徐々に減少していく。

一旦減免が認められても、雑草が繁茂して近隣住民から苦情が寄せられるなど適正な管理が行われていない場合は減免を打ち切る方針である。

- ⑥所感：豊前市は福岡県の東南端に位置し、北九州とは北西 45 km、



大分県中津市とは南東 7 km の位置関係にあり、京築地域南部の中心都市であり、経済的には北九州市と、市民生活や文化面では中津市と深い関係にある。

豊前市にずっと住み続けたいと思ってもらえるよう、独自のまちづくりを目指し、保健・医療・福祉・教育・住宅といったあらゆる分野に市民一丸となって取り組んでいる。

特に住宅分野で「空き家バンク制度」は、県内でも物件登録数、成約件数が No.1 でかなりの実績を上げている。きめ細やかな対応で利用者と所有者のマッチングを行っている。

「定住促進補助金」は、青豊分譲地を購入し、住宅を建築する方に一定の条件のもと最高 120 万円の補助金を交付するもので、かなり有効な補助制度となっている。

また、若者対策としての「新婚家庭家賃助成金交付事業」は、新婚世帯の市内への定住及び民間賃貸住宅の活用を図るため、市内の民間賃貸住宅に入居する新婚世帯に対して家賃の一部を助成するものである。公営住宅・社宅の入居者は対象にならないが、夫婦共に 40 歳以下で婚姻の届け出の日から 1 年以内の世帯に月額 1 万円を最高 3 年間助成するもので、これも若い二人のために有効な助成金交付事業である。

その他にも出産・子育て支援も充実しており、「不妊治療費の助成」を行っており、これは特定不妊治療に要した費用に対し 1 年度（申請のあった日の属する年度）あたり 10 万円まで通算 5 年間で限度として助成するものである。

新婚家庭が豊前市に住むことを決めた理由の第 1 位は実家が近いから、第 2 位は助成金があるから、第 3 位は通勤通学に便利だからということである。やはり助成金があることが、その土地に住む場合の大きな魅力である。釜石市も少子化問題の対応策としての子育てに対する手厚い補助金は今後、前向きに考えて欲しいところである。

4-2. 視察概要…訪問市（福岡県福岡市 人口 152 万人）

①研修日：平成 27 年 5 月 29 日（金）15：30～17：00

②研修課題：ラグビー振興とラグビーワールドカップ 2019 成功策

③視察先対応者：スポーツ事業課 井上氏、守出課長

④視察に取り上げた理由：ラグビーワールドカップ 2019 の開催自治体 12 会場 19 自治体のうちラグビーの盛んな福岡県福岡市からぜひラグビーの振興策をご教授頂きたくて。

⑤視察先の概要説明（スポーツ事業課 井上氏）

福岡におけるラグビーの歴史は、1924 年以降、福岡高校や修猷館高

校の進学校でラグビー部が創部され、1933年、八幡製鉄でラグビー部が創部。戦中、戦後に福岡高校が全国大会優勝。1950～60年代八幡製鉄が全国社会人ラグビーフットボール大会で優勝。2000年代に入り、高校生年代では、東福岡高校が全国制覇を繰り返すと共に中学生年代でもクラブチームが全国制覇。

現状は、ラグビースクール数は大阪に次いで2番目でトップリーグにコカコーラ、トップキュウシュウリーグに宗像サニックス、九州電力が所属している。2012年にゴールデンオールディーズ・ワールドラグビーフェスティバルを開催したところ、市民を挙げてのおもてなしを評価され、同大会事務局から福岡市に「フレンドシップ・アワード（友情賞）」が贈呈された。

市の取り組みは、スタージャンプ福岡での共働や試合会場の調整、試合日程の広報、そしてラグビーイベントへの後援を行っている。

⑥所感：とにかくラグビーの盛んな土地、福岡市であり、ラグビーワールドカップ2019の福岡会場決定した経緯は、ラグビーW杯2019福岡市招致委員会を設置し、ラグビー教室、ラグビーフォーラムを開催。それによって大会やラグビーの魅力を発信し、市民の機運醸成を図っている。委員会のメンバーの中で、特に市、県、商工会議所、ラグビー協会が熱心だが、それは地元財界の役員クラスにラグビーファンが多いことである。釜石もV7時代のファンが今回のW杯決定に一役買っているものと思う。熱い気持ちを持った者がどれだけ沢山いるかが大会の誘致及び成功に繋がるものである。

ラグビー振興に大きな役目を果たしている取り組みとして、(公財)福岡市スポーツ協会が主催として行っている「子供スポーツフェスタ」が挙げられる。これは、小学校1年生～4年生の子供達に市民体育館でラグビー、野球、サッカー、バスケットの協議を楽しんでもらうもので、子供達に種目を越えてスポーツの素晴らしさや体を動かす楽しさ、そしてスポーツをする子供を増やし、福岡の子供達の体力向上及び生きる力の向上を図りたいとする取り組みで非常に素晴らしいものである。子供達に押し付けではないスポーツの楽しさから入っていくこのフェスタは、私達も非常に参考にしたい。

鉄の歴史が釜石から福岡県の八幡製鉄に移ったように、ラグビーの歴史も釜石と福岡の繋がり深いものがある。あの新日鐵ラグビー部で活躍した森重隆氏は福岡にてラグビー界の重鎮であり、九州ラグビー協会副理事長でもある。釜石ラグビーの人の繋がりがワールドカップ誘致に結び付いたものであり、今後も大会の成功、そして今後のラグビーを通したまちづくりの大きな活力となるものである。



豊前市役所前



空き家対策を説明する 磯永議長・榎本議員・担当職員



福岡市役所 ワールドカップラグビー開催の取り組み説明をする宇出課長

